

2015年12月15日

関係各位

東京工芸大学芸術学部
写大ギャラリー運営委員会

写真展のお知らせ

拝啓 時下益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚誼にあずかり厚く御礼申し上げます。

このたび東京工芸大学写大ギャラリーでは、土門拳写真展「古寺巡礼」を開催いたします。つきましては、下記の通り写真展のご案内をさせていただきますとともに、貴メディアにおきまして採り上げていただきたくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 写真展タイトル **土門 拳 写真展「古寺巡礼」**
—写大ギャラリー土門拳コレクションより—
2. 期 日 2016年1月25日(月) ～ 2016年3月25日(金)
10:00 ～ 20:00 会期中無休・入場無料
3. 場 所 東京工芸大学 写大ギャラリー
〒164-8678 中野区本町2-4-7 芸術情報館2F
TEL 03-3372-1321 (代)
地下鉄丸ノ内線／大江戸線
中野坂上駅下車 1番出口・徒歩7分
4. 展 示 作 品 カラー・モノクロ写真作品 約50点
5. 主 催 東京工芸大学芸術学部

[連絡先] 東京工芸大学 写大ギャラリー
担当：吉野・堀田

TEL: 03-5371-2694 (直通)

FAX: 03-5388-7996

〔写真展概要〕

本展は、写大ギャラリーコレクションより、昭和の写真界の巨匠 土門拳の代表作のひとつである「古寺巡礼」シリーズから代表的な作品を展示するものです。

同シリーズは、土門が1939（昭和14）年に室生寺を訪れ、その翌年、中宮寺・広隆寺にて弥勒菩薩を撮影したことから始まります。その後約40年間に渡り、土門が独自の眼と感性によって選んだ寺院・仏像を撮り続けたライフワークとも言える作品です。

日本の古典に対する土門の礼賛と美意識を織り込んだ作品の根底には、撮影当時の戦争に対する不穏な予感と拒絶、強固な意思が潜んでおり、古典の中に日本人としての自主独立の矜持と生命力を見出そうとする姿勢が存在しています。土門自身も『古寺巡礼』第一集（1963年・美術出版社）の中でこう述べています。

「奈良や京都の寺をまわって日本の古典を追求する仕事と、アクチュアルな社会問題と取り組む仕事とは、一見矛盾し、相反するよう見えるが、ぼく自身にとっては同じことだった。縫り糸がないまじっているだけで、一本の綱であることに変わりはない。日本民族のヴァイタリティーを触発すること、対象はちがっても、ただそれだけがぼくの関心だった。」

シリーズの撮影と『古寺巡礼』全5集の発刊を続ける中で、土門は二度脳出血で倒れています。右半身不随となり、車椅子での生活を余儀なくされましたが、1978（昭和53）年、念願だった雪の室生寺を撮影し、シリーズの制作を終えています。

そして同年、土門の厚意により、1237点のオリジナル・プリントが写大ギャラリーへ寄贈されることになり、『古寺巡礼』全5集（美術出版社）、『土門拳自選作品集』（世界文化社）に収録された作品のプリントが新たに制作されました。約600点のプリントを土門の監修下で制作し終えた1979（昭和54）年9月、土門は脳血栓に倒れ、そのまま11年間意識が戻ることはないまま、1990（平成2）年に80歳で亡くなりました。土門が意識を失った後、土門のプリントの調子を熟知していた夫人（たみ）と長女（真魚＝本学36期卒、現・土門拳記念館館長）の監修の下、残り約600点のプリント制作が続けられ、収蔵が完了するまでに5年の歳月を要しました。

激動の時代に翻弄される人々へカメラを向ける一方で、古寺・仏像と向き合い、そこに古来より受け継がれる日本人としてのアイデンティティーを見出そうとした、土門の熱く真摯なまなざしを、本展のオリジナル・プリントから感じ取って頂けたらと存じます。

本展は、写大ギャラリー開設40周年を記念して2015年10月に新潟市新津美術館で開催された「土門拳写真展 -古寺巡礼-」にて展示された150点の写大ギャラリー土門拳コレクションの中から代表的な作品を別選し、展示するものです。

土門 拳（どもん けん）

1909年山形県酒田市生まれ。中学時代より画家を志すが、家の事情で断念。1933年に営業写真館である宮内幸太郎写真場の内弟子となるが、報道写真家を目指し、1935年、ドイツから帰国した名取洋之助が設立した日本工房に入社。戦後は絶対非演出の「リアリズム写真」をカメラ雑誌などで提唱し、写真界に大きな影響を与えた。1958年に写真集『ヒロシマ』（研光社）を刊行、国内外で高い評価を得る。筑豊炭鉱地帯の窮状を取材した1960年刊行の写真集『筑豊のこどもたち』（パトリア書店）は10万部を超えるベストセラーとなる。その後、仏像や寺院、古陶磁などの伝統工芸品や風景など、一貫して日本を撮り続けた。

〔広報用写真〕



1. 三十三間堂内陣 千体千手観音立像群正面
1962（昭和37）年



2. 飛鳥寺金堂 釈迦如来座像面相詳細
1964（昭和39）年



3. 高山寺 神鹿像 伝運慶作
1965（昭和40）年



4. 平等院鳳凰堂 阿弥陀如来坐像見上げ
1966（昭和41）年



5. 室生寺弥勒堂 釈迦如来坐像面相左
1966（昭和41）年



6. 雪の室生寺五重塔全景
1978（昭和53）年

写真を掲載いただけます場合には、番号を指定し、shadai-gallery@t-kougei.ac.jpまでご連絡ください。印刷用の画像データをお送りいたします。